

石炭記念館だより

第7号

発行 直方市石炭記念館
〒822-0016 福岡県直方市大字直方692-4
TEL 0949-25-2243



子孫のために美田を残さなかった鉱業家

堀 三太郎

今回は、麻生太吉、安川敬一郎、貝島太助、伊藤伝衛門と並んで、筑豊の五大炭坑主と言われた堀三太郎を紹介します。

堀 三太郎は、慶応三年(1867年)に直方の新町の醤油屋・瓜生幾次の長男として生まれ、家業を継ぎましたが、明治に入って炭坑が盛んになり、筑豊にも多くの中小炭坑が生まれました。

三太郎はこれに目をつけ、新町で醤油樽を川船に積み、嘉麻川を遡り、勝野、小竹、鯉田方面の炭坑に降りて回りました。三太郎は肝の据わった男でした。出入りの炭坑で、たまたま出会った喧嘩の仲裁に入ったのが縁で、炭坑主に見込まれ、小山の経営を助けることになり、明治二十一年(1888年)には独立して、勝野村に小さな炭坑を持つことになったのです。



事業は当り、宮田、本洞と炭鉱の数が増えて

いき、明治四十四年、海軍炭坑だった御徳炭坑を手に入れたところから、三太郎の事業は盤石となりました。三太郎は堀鉱業所を発足させ、麻生、貝島、安川、伊藤と並んで筑豊の五大炭坑主と呼ばれるようになりました。

やがて、筑豊の堀は九州の堀となりました。長崎の東松島炭坑を始め、三菱と手を結んだ崎戸炭坑、田川の採銅所、島根、岡山、山口などの金山、銅山の開発にも手を広げていきました。

大正四年(一九一五年)には代議士に押されましたが、三太郎はまっすぐに事業化の道を進みました。

直方の鞍手銀行、麻生太吉と共同での産業セメント、豊国セメントなどの創設。

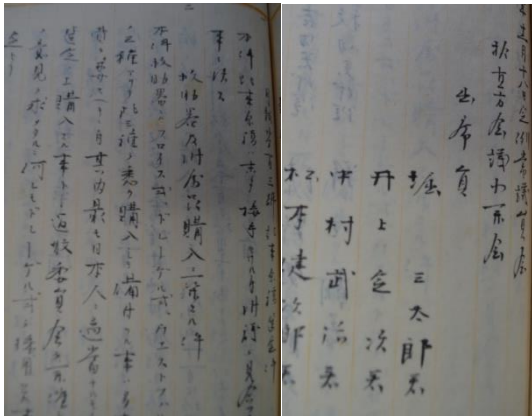
また東邦電力の取締役、福博電車会社の社長、筑豊電気軌道の重役等へ就任など、三太郎が関係した会社は十数社に上りました。こうして三太郎は巨万の富を築いていきました。昭和の初めには直方商工会現直方商工会議所の会長も務めました。

昭和十三年(1938年)七十二歳の三太郎は事業の整理を始めました。

「俺の財産は子供には残さない。子供はそれぞれの力で自分の道を進んでいけ」。

それが三太郎の信念でした。新町にあった広大な邸宅は堀クラブと呼ばれ、後に直方市中央公民館として市民に親しまれ、直方の社会教育の中心施設として活用されました。また、結婚式場としても約三千組に利用されました。

直方歳時館となった現在も生涯学習教室やお茶書道、お琴の教室、発表会などに利用されています。



事業の整理が終わると、三太郎は福岡の別邸に移り、社会から姿を消しました。

一代で九州屈指の財を成した男の身の処し方は見事でした。

昭和三十三年、(1958年)三太郎は静かに九十二歳の生涯を閉じました。

墓は山部の雲心寺にあります。

上段の資料は、大正元年十一月十八日に直方会議所で開催された定例常議員会の記録です。松本健次郎、伊藤伝衛門と共に「救命費フロイス式、ドレガー式等を購入し備えつける」の会議の内容です。

参考資料「直方の歴史と文化財」



直方歳時館